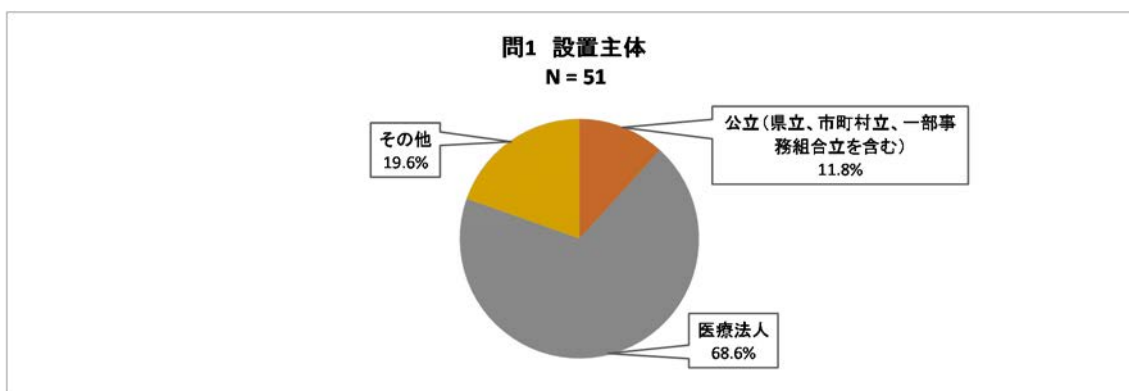


病院・施設(理学療法士用)

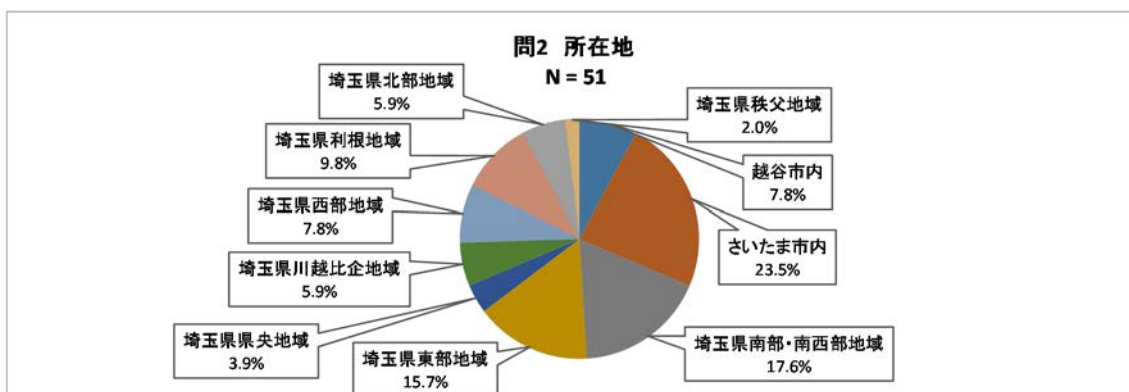
問1 設置主体

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国立	0	0.0
2	公立(県立、市町村立、一部事務組合立を含む)	6	11.8
3	医療法人	35	68.6
4	その他	10	19.6
	無回答	0	0.0
	N (%へ入)	51	100



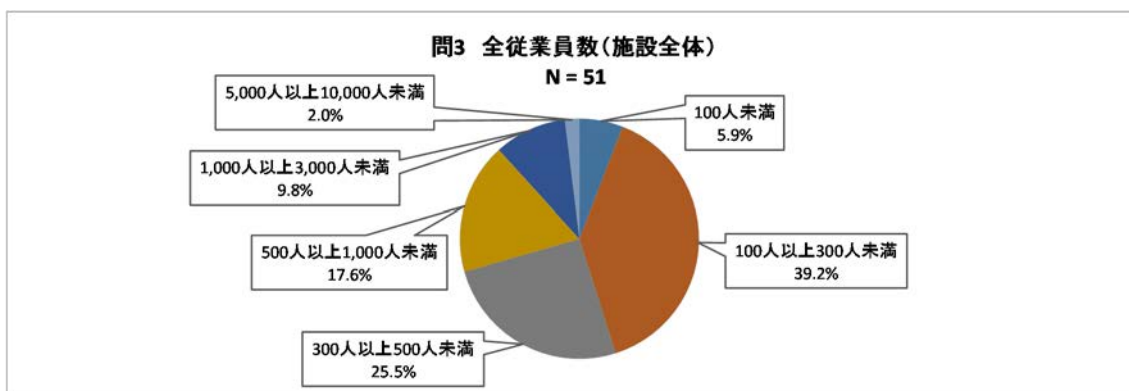
問2 所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	越谷市内	4	7.8
2	さいたま市内	12	23.5
3	埼玉県南部・南西部地域	9	17.6
4	埼玉県東部地域	8	15.7
5	埼玉県中央地域	2	3.9
6	埼玉県川越比企地域	3	5.9
7	埼玉県西部地域	4	7.8
8	埼玉県利根地域	5	9.8
9	埼玉県北部地域	3	5.9
10	埼玉県秩父地域	1	2.0
	無回答	0	0.0
	N (%へ入)	51	100



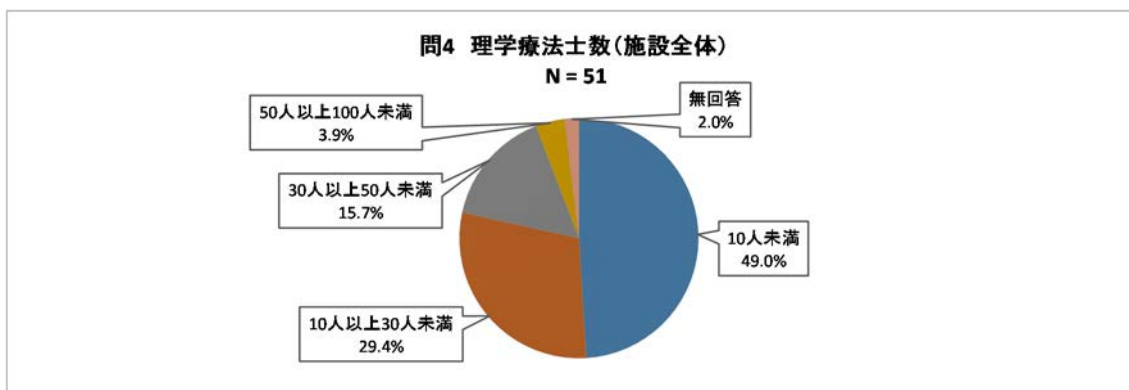
問3 全従業員数(施設全体)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	100人未満	3	5.9
2	100人以上300人未満	20	39.2
3	300人以上500人未満	13	25.5
4	500人以上1,000人未満	9	17.6
5	1,000人以上3,000人未満	5	9.8
6	3,000人以上5,000人未満	0	0.0
7	5,000人以上10,000人未満	1	2.0
8	10,000人以上	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%への入)	51	100



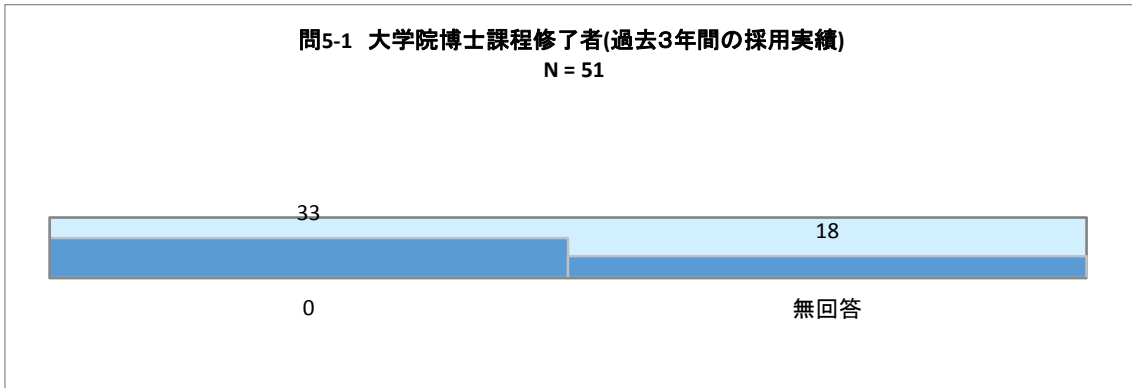
問4 理学療法士数(施設全体)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	10人未満	25	49.0
2	10人以上30人未満	15	29.4
3	30人以上50人未満	8	15.7
4	50人以上100人未満	2	3.9
5	100人以上200人未満	0	0.0
6	200人以上300人未満	0	0.0
7	300人以上	0	0.0
	無回答	1	2.0
	N (%への入)	51	100



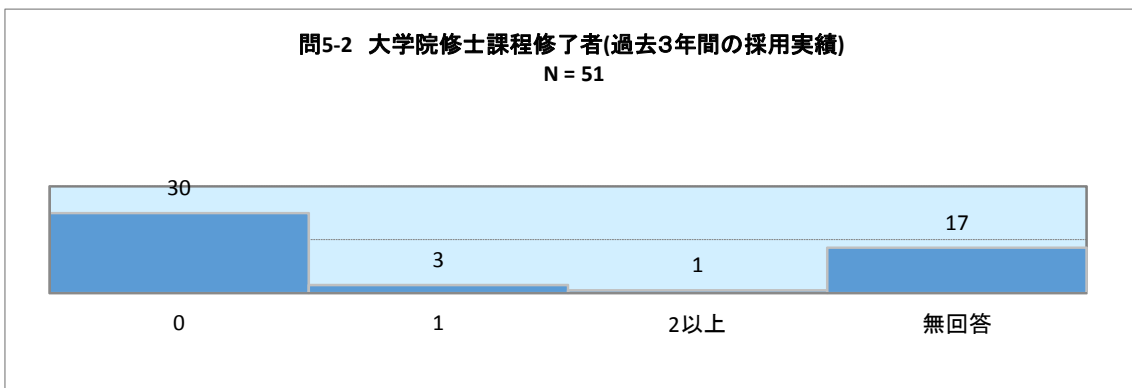
問5-1 大学院博士課程修了者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0	33	64.7
	無回答	18	35.3
	N (%ベース)	51	100



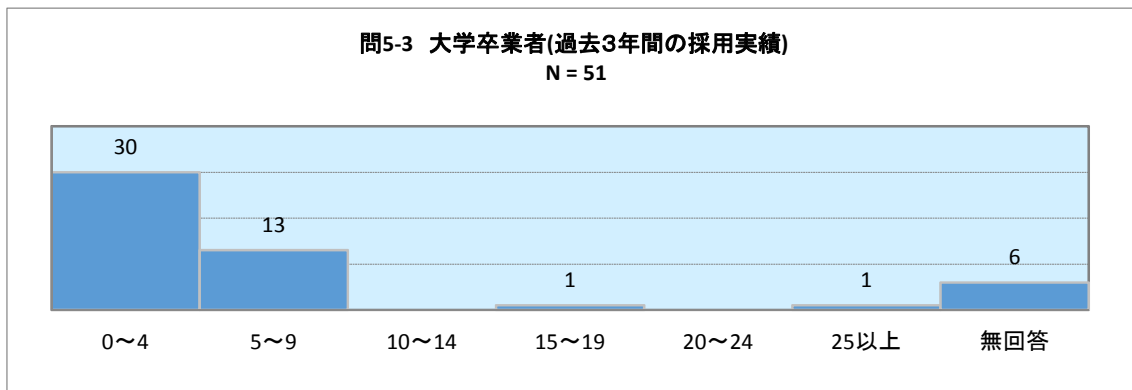
問5-2 大学院修士課程修了者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0	30	58.8
2	1	3	5.9
3	2以上	1	2.0
	無回答	17	33.3
	N (%ベース)	51	100



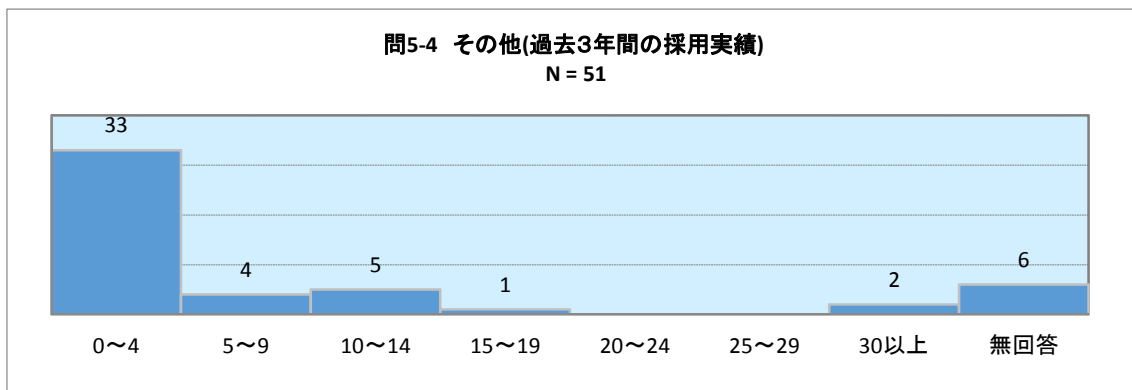
問5-3 大学卒業者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0~4	30	58.8
2	5~9	13	25.5
3	10~14	0	0.0
4	15~19	1	2.0
5	20~24	0	0.0
6	25以上	1	2.0
	無回答	6	11.8
	N (%への入)	51	100



問5-4 その他(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0~4	33	64.7
2	5~9	4	7.8
3	10~14	5	9.8
4	15~19	1	2.0
5	20~24	0	0.0
6	25~29	0	0.0
7	30以上	2	3.9
	無回答	6	11.8
	N (%への入)	51	100

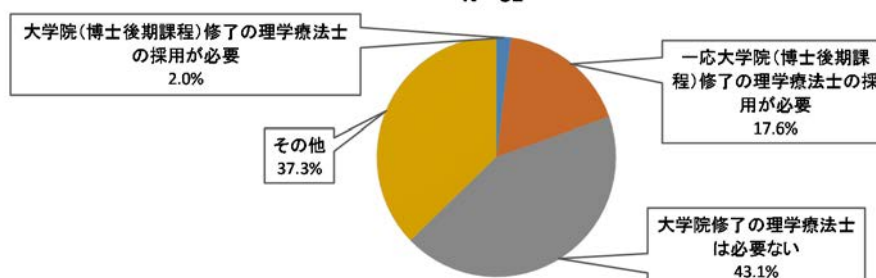


問6 将来的な大学院(博士後期課程)修了の理学療法士の採用の必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院(博士後期課程)修了の理学療法士の採用が必要	1	2.0
2	一応大学院(博士後期課程)修了の理学療法士の採用が必要	9	17.6
3	大学院修了の理学療法士は必要ない	22	43.1
4	その他	19	37.3
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	51	100

問6 将来的な大学院(博士後期課程)修了の理学療法士の採用の必要性

N = 51

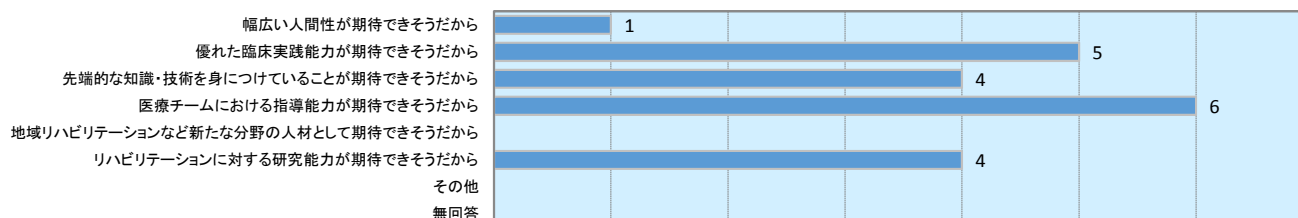


問7 大学院(博士後期課程)修了の理学療法士の採用が必要な理由 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	幅広い人間性が期待できそうだから	1	10.0
2	優れた臨床実践能力が期待できそうだから	5	50.0
3	先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから	4	40.0
4	医療チームにおける指導能力が期待できそうだから	6	60.0
5	地域リハビリテーションなど新たな分野の人材として期待できそうだから	0	0.0
6	リハビリテーションに対する研究能力が期待できそうだから	4	40.0
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	10	100

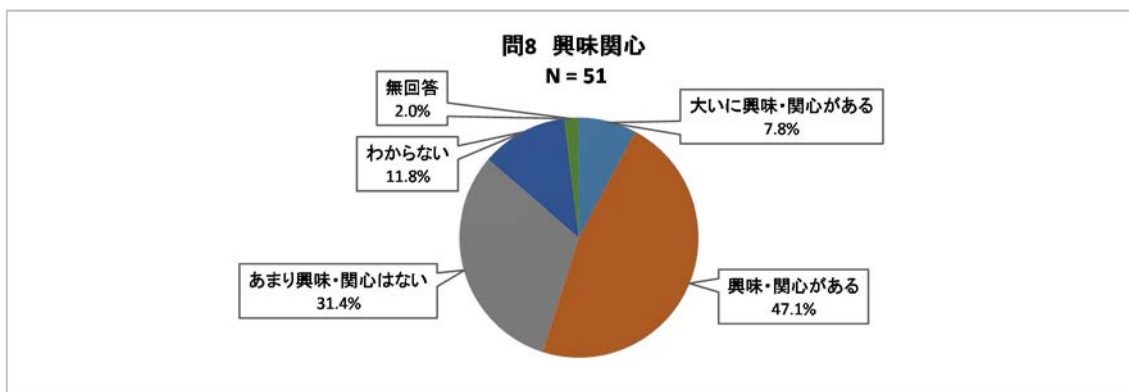
問7 大学院(博士後期課程)修了の理学療法士の採用が必要な理由

N = 10



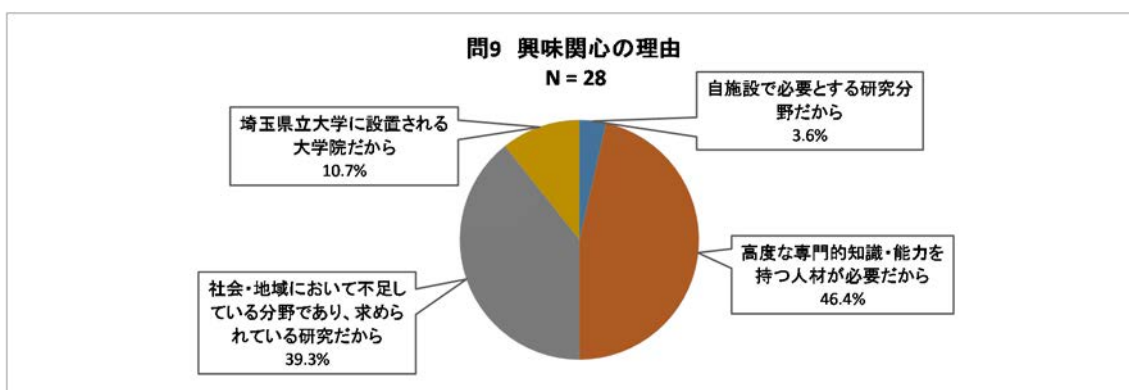
問8 興味関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	4	7.8
2	興味・関心がある	24	47.1
3	あまり興味・関心はない	16	31.4
4	全く興味・関心がない	0	0.0
5	わからない	6	11.8
	無回答	1	2.0
	N (%ベース)	51	100



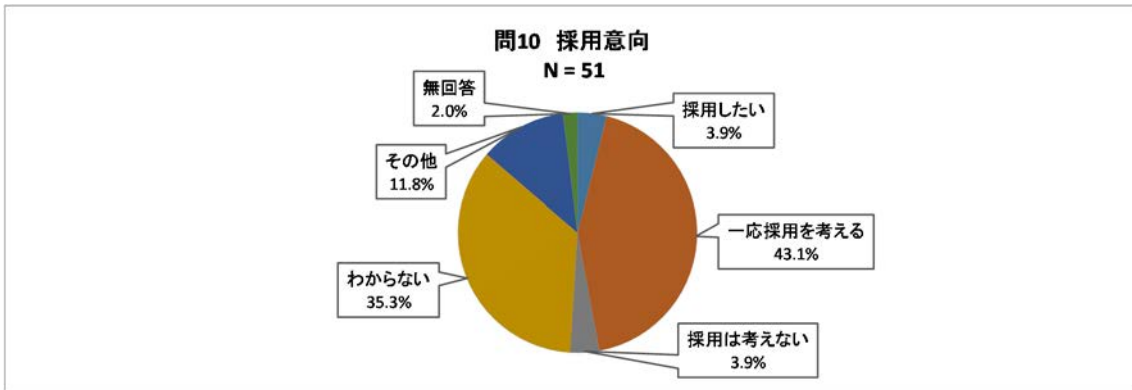
問9 興味関心の理由

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	自施設で必要とする研究分野だから	1	3.6
2	高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから	13	46.4
3	社会・地域において不足している分野であり、求められている研究だから	11	39.3
4	埼玉県立大学に設置される大学院だから	3	10.7
5	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	28	100



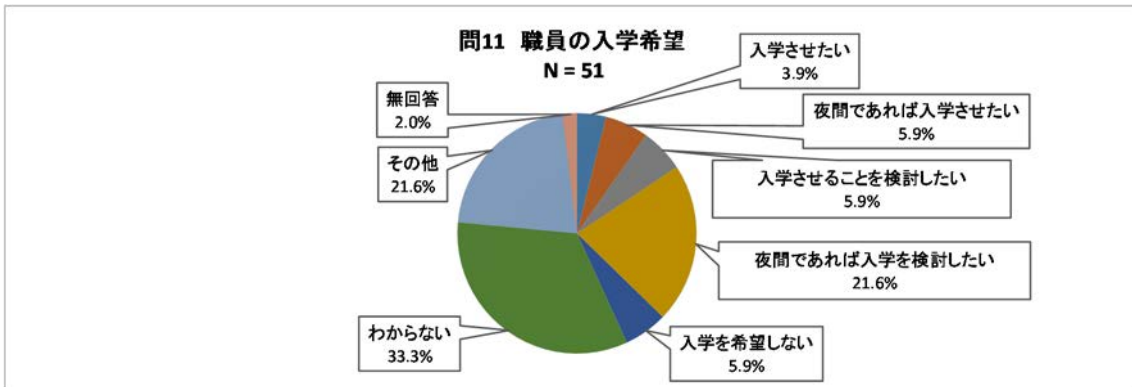
問10 採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	2	3.9
2	一応採用を考える	22	43.1
3	採用は考えない	2	3.9
4	わからない	18	35.3
5	その他	6	11.8
	無回答	1	2.0
	N (%ベース)	51	100



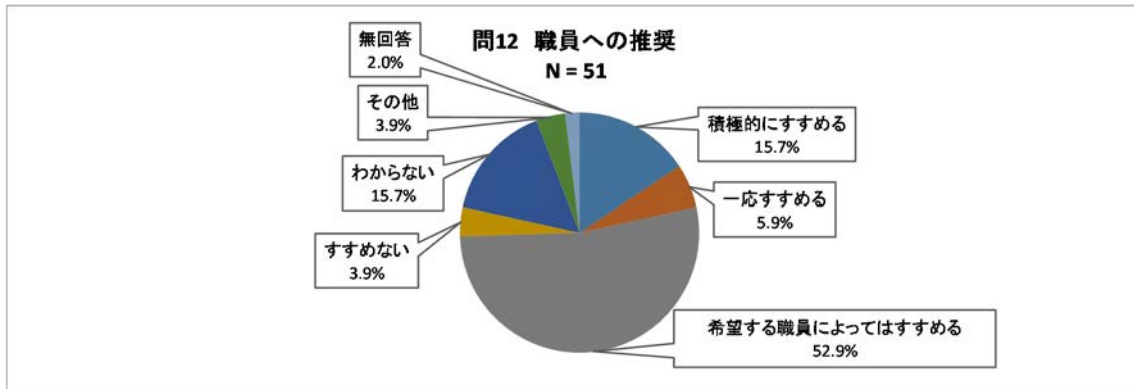
問11 職員の入学希望

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学させたい	2	3.9
2	夜間であれば入学させたい	3	5.9
3	入学させることを検討したい	3	5.9
4	夜間であれば入学を検討したい	11	21.6
5	入学を希望しない	3	5.9
6	わからない	17	33.3
7	その他	11	21.6
	無回答	1	2.0
	N (%ベース)	51	100



問12 職員への推奨

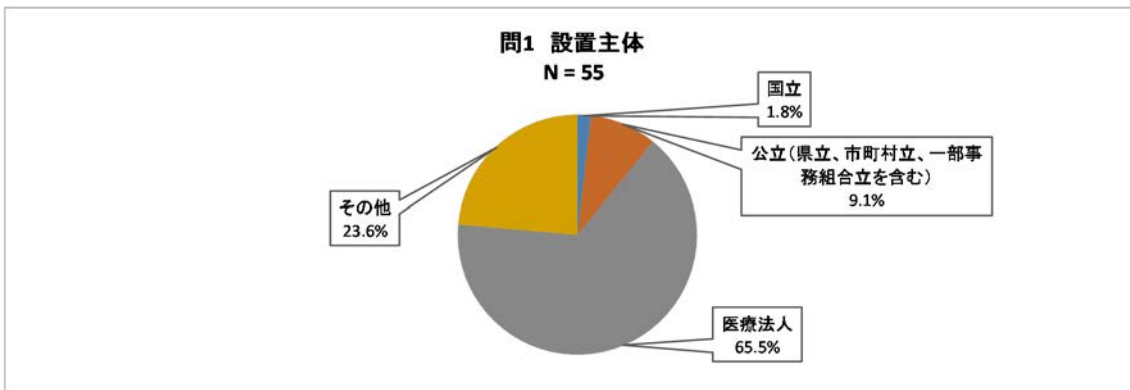
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的にすすめる	8	15.7
2	一応すすめる	3	5.9
3	希望する職員によってはすすめる	27	52.9
4	すすめない	2	3.9
5	わからない	8	15.7
6	その他	2	3.9
	無回答	1	2.0
	N (%ベース)	51	100



病院・施設(作業療法士用)

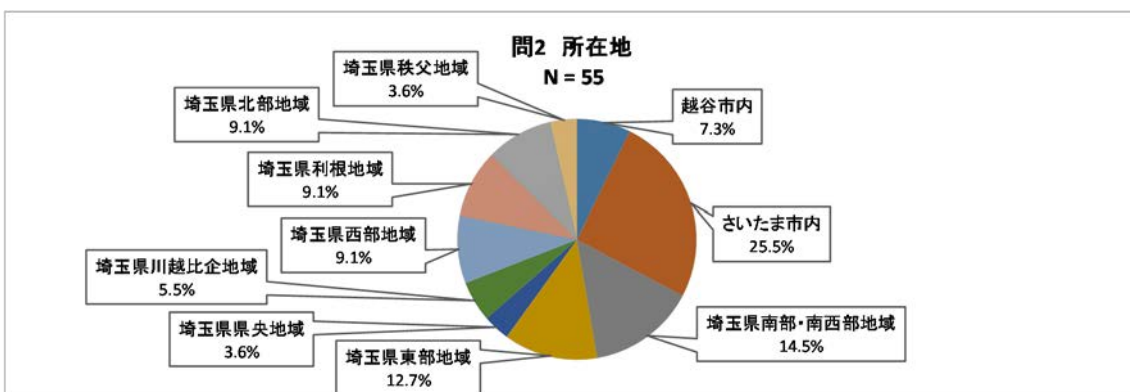
問1 設置主体

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国立	1	1.8
2	公立(県立、市町村立、一部事務組合立を含む)	5	9.1
3	医療法人	36	65.5
4	その他	13	23.6
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -入)	55	100



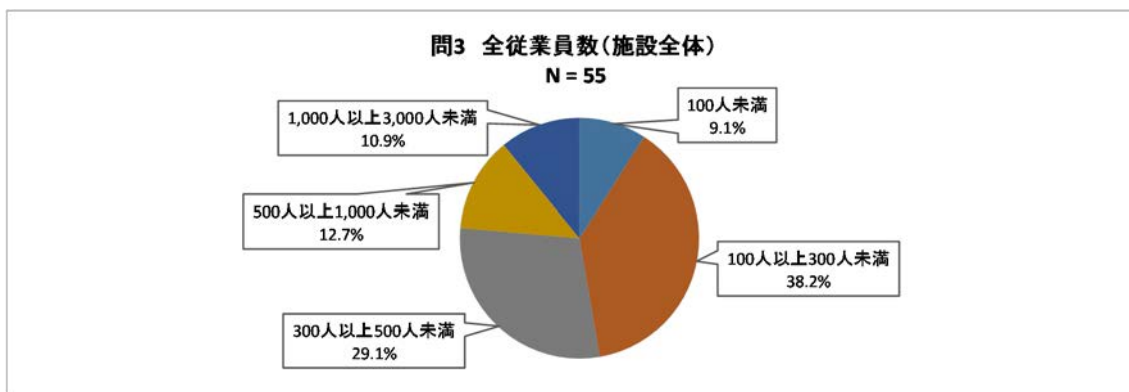
問2 所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	越谷市内	4	7.3
2	さいたま市内	14	25.5
3	埼玉県南部・南西部地域	8	14.5
4	埼玉県東部地域	7	12.7
5	埼玉県県央地域	2	3.6
6	埼玉県川越比企地域	3	5.5
7	埼玉県西部地域	5	9.1
8	埼玉県利根地域	5	9.1
9	埼玉県北部地域	5	9.1
10	埼玉県秩父地域	2	3.6
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -入)	55	100



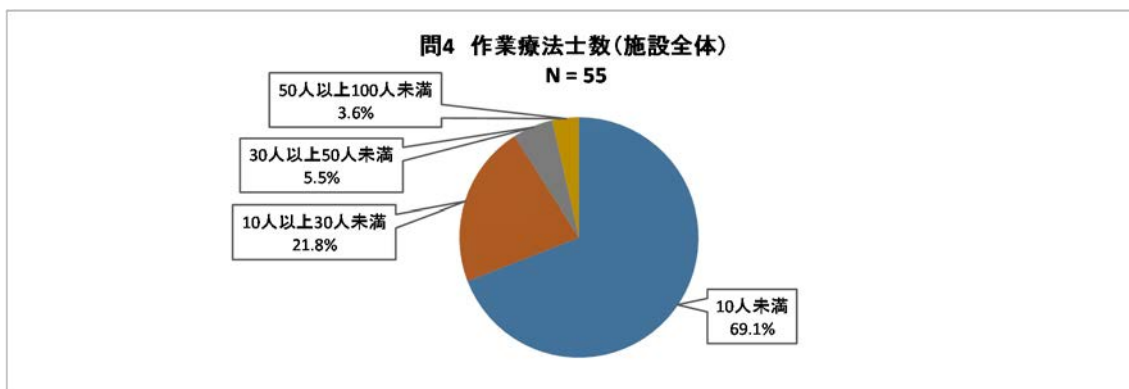
問3 全従業員数(施設全体)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	100人未満	5	9.1
2	100人以上300人未満	21	38.2
3	300人以上500人未満	16	29.1
4	500人以上1,000人未満	7	12.7
5	1,000人以上3,000人未満	6	10.9
6	3,000人以上5,000人未満	0	0.0
7	5,000人以上10,000人未満	0	0.0
8	10,000人以上	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -入)	55	100



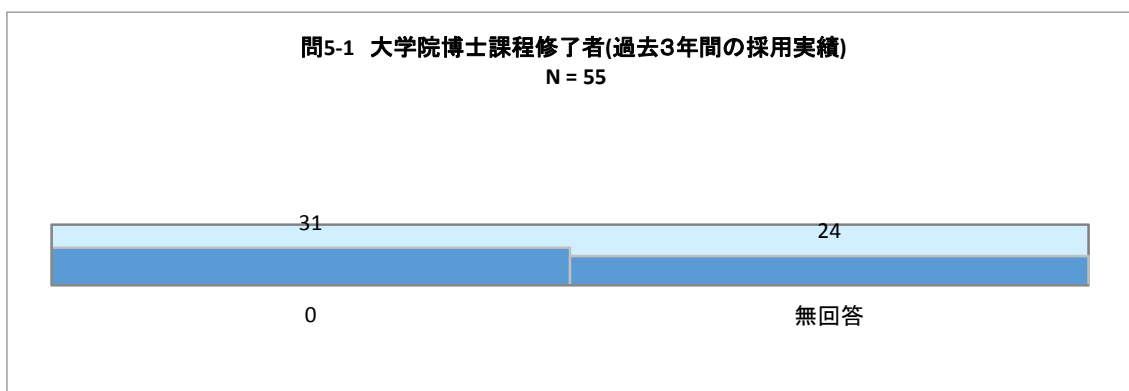
問4 作業療法士数(施設全体)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	10人未満	38	69.1
2	10人以上30人未満	12	21.8
3	30人以上50人未満	3	5.5
4	50人以上100人未満	2	3.6
5	100人以上200人未満	0	0.0
6	200人以上300人未満	0	0.0
7	300人以上	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -入)	55	100



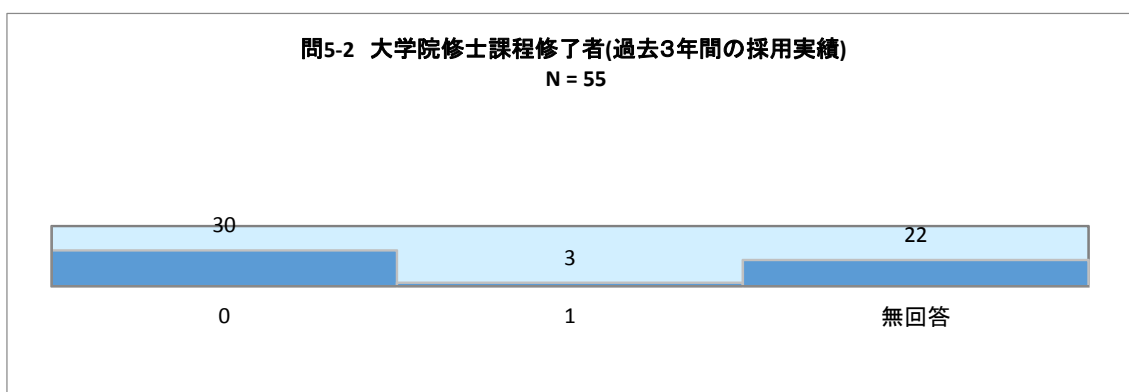
問5-1 大学院博士課程修了者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0	31	56.4
	無回答	24	43.6
	N (%への入)	55	100



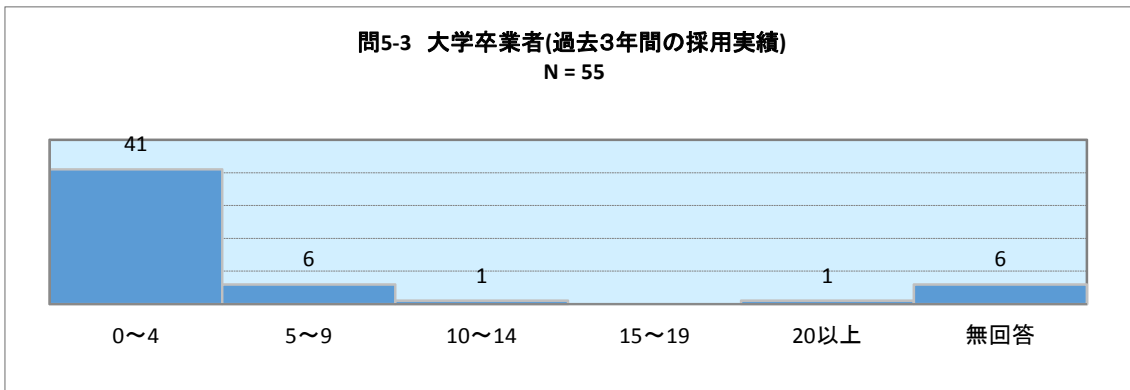
問5-2 大学院修士課程修了者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0	30	54.5
2	1	3	5.5
	無回答	22	40.0
	N (%への入)	55	100



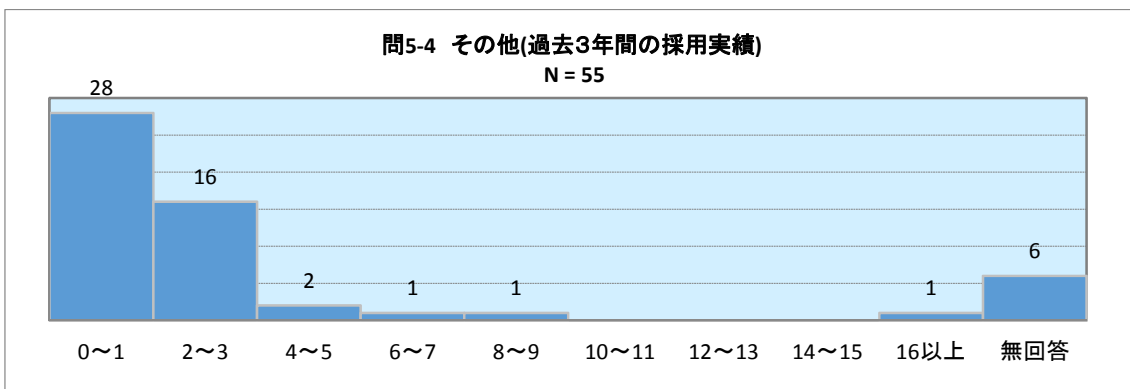
問5-3 大学卒業者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0~4	41	74.5
2	5~9	6	10.9
3	10~14	1	1.8
4	15~19	0	0.0
5	20以上	1	1.8
	無回答	6	10.9
	N (%へ入)	55	100



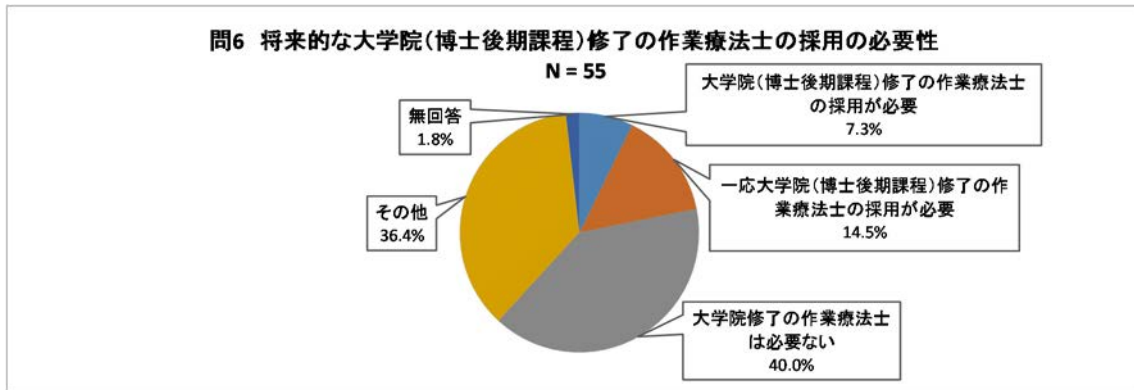
問5-4 その他(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0~1	28	50.9
2	2~3	16	29.1
3	4~5	2	3.6
4	6~7	1	1.8
5	8~9	1	1.8
6	10~11	0	0.0
7	12~13	0	0.0
8	14~15	0	0.0
9	16以上	1	1.8
	無回答	6	10.9
	N (%へ入)	55	100



問6 将来的な大学院(博士後期課程)修了の作業療法士の採用の必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院(博士後期課程)修了の作業療法士の採用が必要	4	7.3
2	一応大学院(博士後期課程)修了の作業療法士の採用が必要	8	14.5
3	大学院修了の作業療法士は必要ない	22	40.0
4	その他	20	36.4
	無回答	1	1.8
	N (%ベース)	55	100

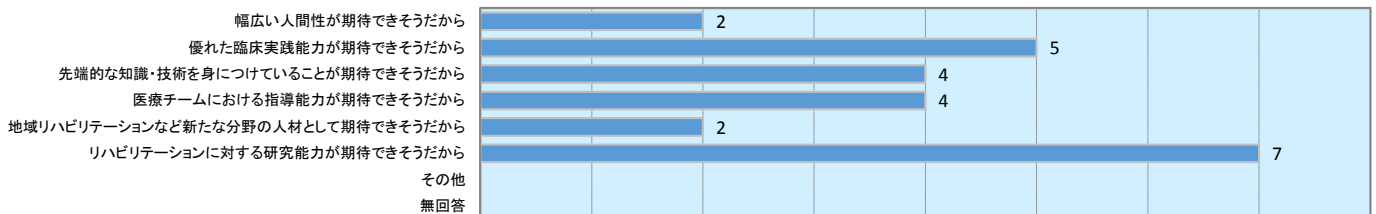


問7 大学院(博士後期課程)修了の作業療法士の採用が必要な理由 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	幅広い人間性が期待できそうだから	2	16.7
2	優れた臨床実践能力が期待できそうだから	5	41.7
3	先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから	4	33.3
4	医療チームにおける指導能力が期待できそうだから	4	33.3
5	地域リハビリテーションなど新たな分野の人材として期待できそうだから	2	16.7
6	リハビリテーションに対する研究能力が期待できそうだから	7	58.3
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	12	100

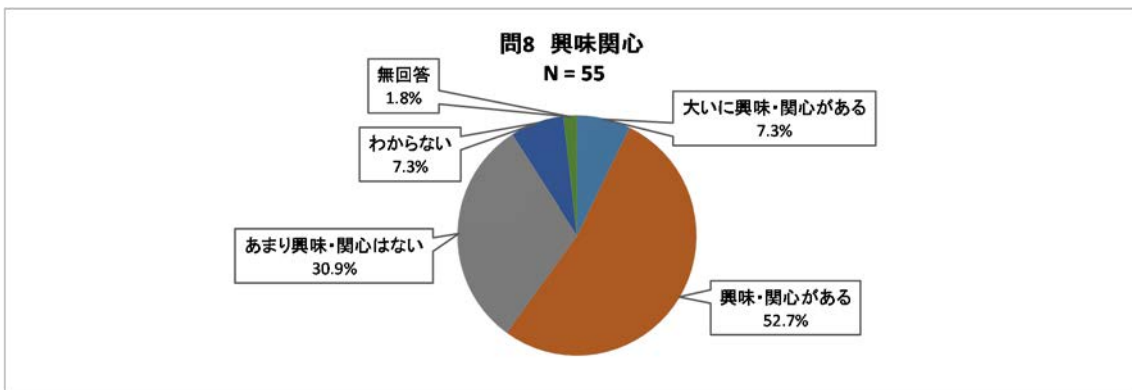
問7 大学院(博士後期課程)修了の作業療法士の採用が必要な理由

N = 12



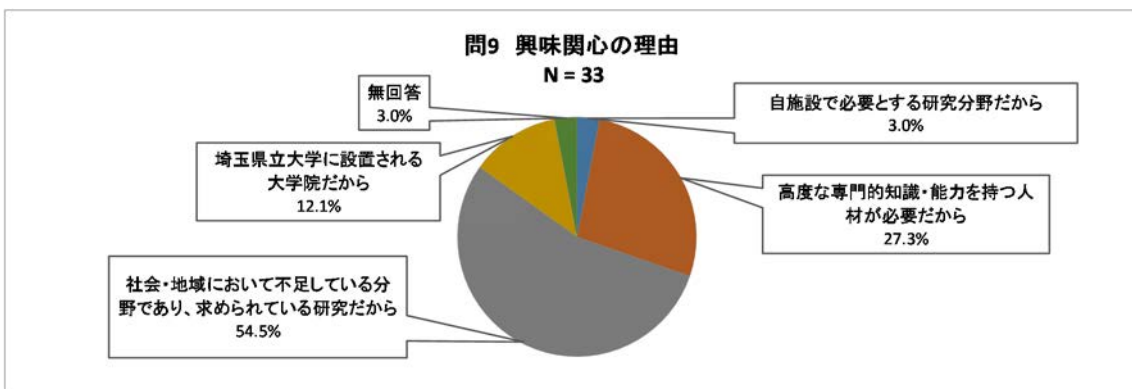
問8 興味関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	4	7.3
2	興味・関心がある	29	52.7
3	あまり興味・関心はない	17	30.9
4	全く興味・関心がない	0	0.0
5	わからない	4	7.3
	無回答	1	1.8
	N (%ベース)	55	100



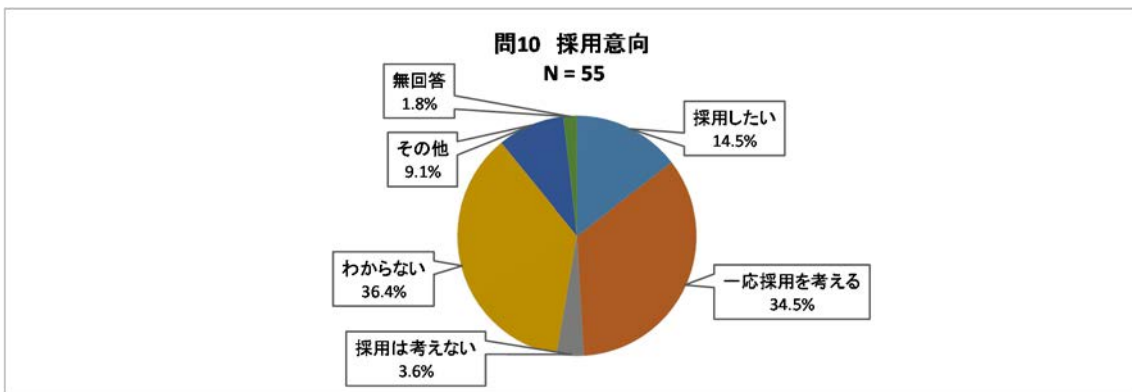
問9 興味関心の理由

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	自施設で必要とする研究分野だから	1	3.0
2	高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから	9	27.3
3	社会・地域において不足している分野であり、求められている研究だから	18	54.5
4	埼玉県立大学に設置される大学院だから	4	12.1
5	その他	0	0.0
	無回答	1	3.0
	N (%ベース)	33	100



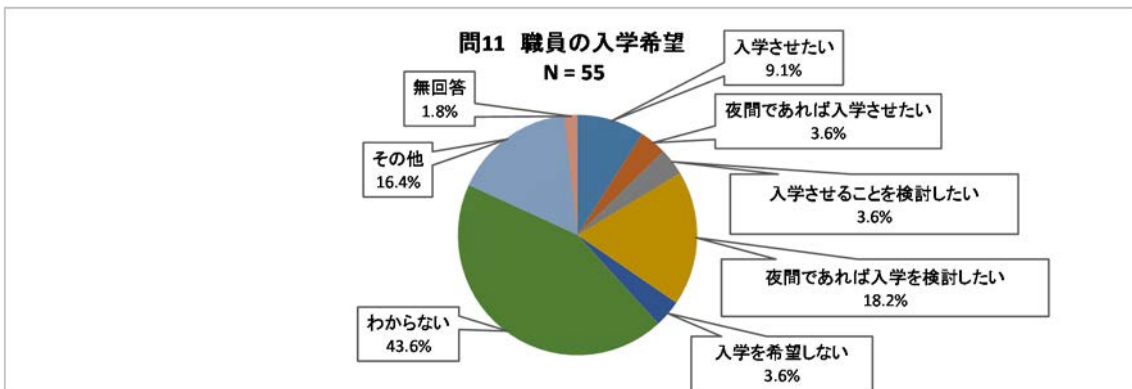
問10 採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	8	14.5
2	一応採用を考える	19	34.5
3	採用は考えない	2	3.6
4	わからない	20	36.4
5	その他	5	9.1
	無回答	1	1.8
	N (%ベース)	55	100



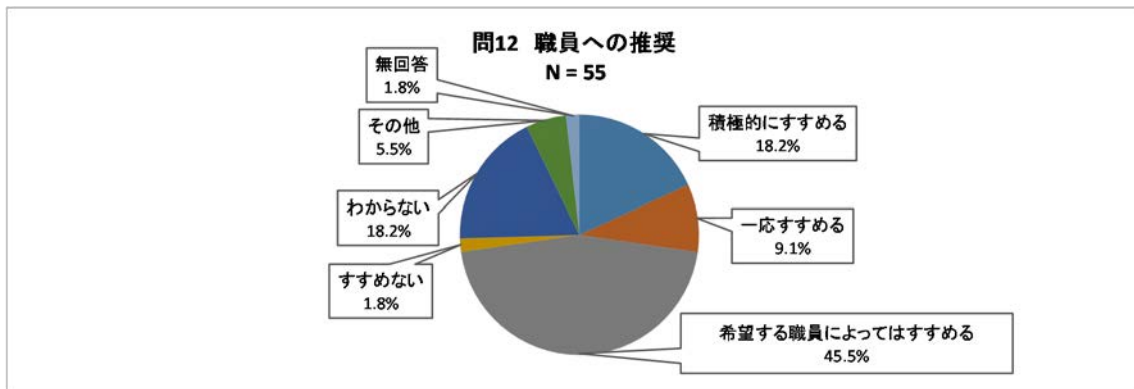
問11 職員の入学希望

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学させたい	5	9.1
2	夜間であれば入学させたい	2	3.6
3	入学させることを検討したい	2	3.6
4	夜間であれば入学を検討したい	10	18.2
5	入学を希望しない	2	3.6
6	わからない	24	43.6
7	その他	9	16.4
	無回答	1	1.8
	N (%ベース)	55	100



問12 職員への推奨

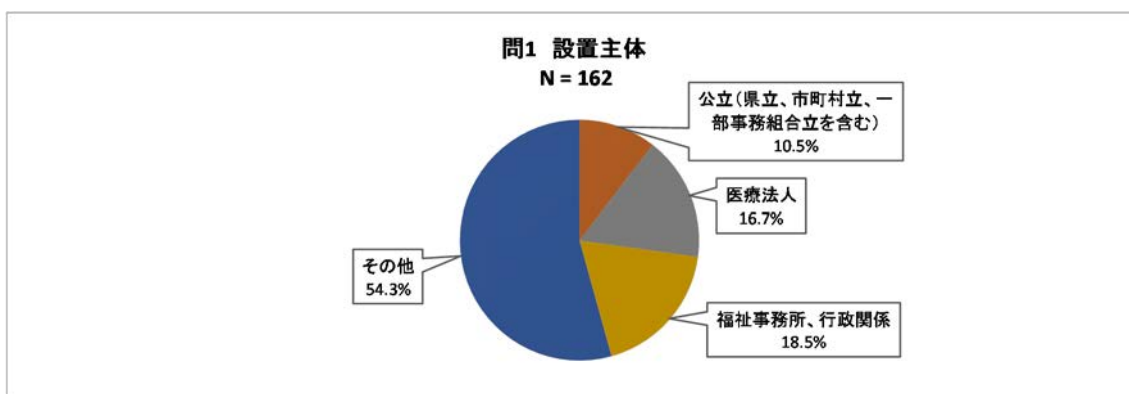
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的にすすめる	10	18.2
2	一応すすめる	5	9.1
3	希望する職員によってはすすめる	25	45.5
4	すすめない	1	1.8
5	わからない	10	18.2
6	その他	3	5.5
	無回答	1	1.8
	N (%ベース)	55	100



病院・施設・機関(社会福祉職用)

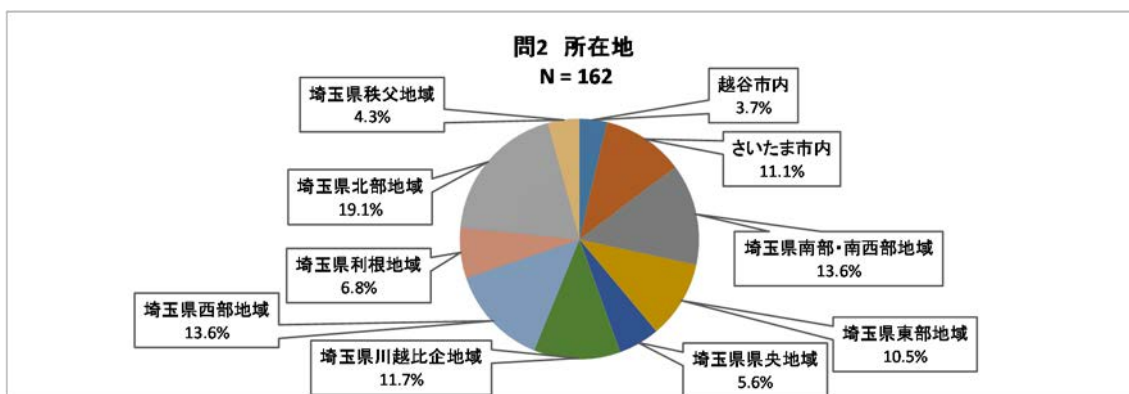
問1 設置主体

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国立	0	0.0
2	公立(県立、市町村立、一部事務組合立を含む)	17	10.5
3	医療法人	27	16.7
4	福祉事務所、行政関係	30	18.5
5	その他	88	54.3
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	162	100



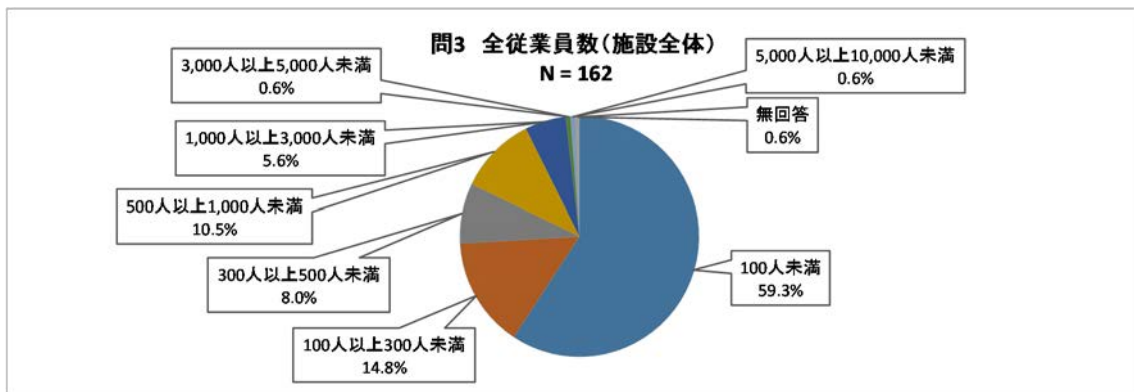
問2 所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	越谷市内	6	3.7
2	さいたま市内	18	11.1
3	埼玉県南部・南西部地域	22	13.6
4	埼玉県東部地域	17	10.5
5	埼玉県県央地域	9	5.6
6	埼玉県川越比企地域	19	11.7
7	埼玉県西部地域	22	13.6
8	埼玉県利根地域	11	6.8
9	埼玉県北部地域	31	19.1
10	埼玉県秩父地域	7	4.3
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	162	100



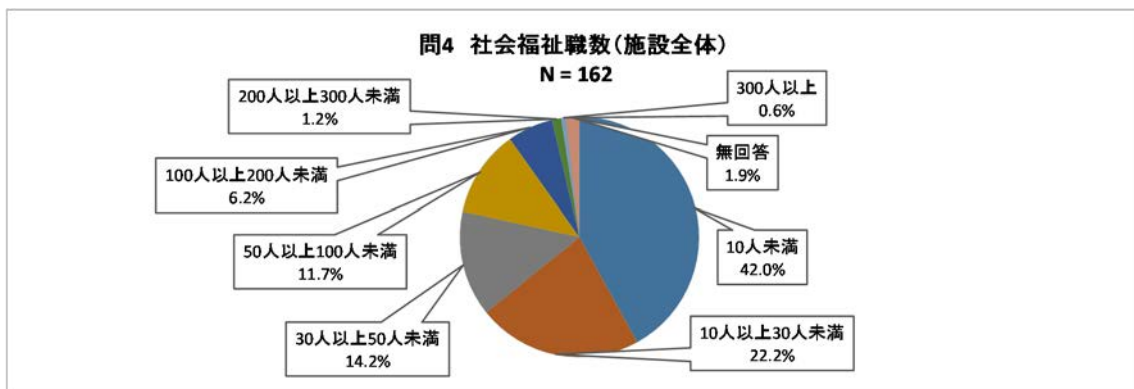
問3 全従業員数(施設全体)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	100人未満	96	59.3
2	100人以上300人未満	24	14.8
3	300人以上500人未満	13	8.0
4	500人以上1,000人未満	17	10.5
5	1,000人以上3,000人未満	9	5.6
6	3,000人以上5,000人未満	1	0.6
7	5,000人以上10,000人未満	1	0.6
8	10,000人以上	0	0.0
	無回答	1	0.6
	N (%ベース)	162	100



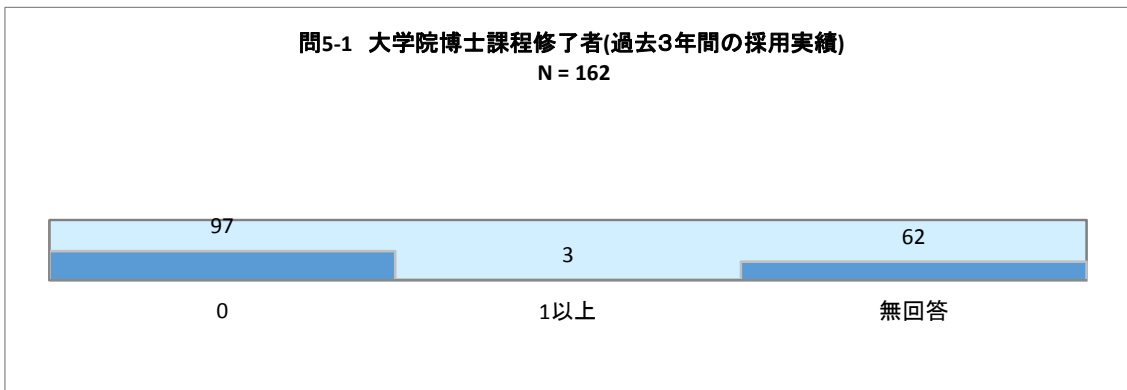
問4 社会福祉職数(施設全体)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	10人未満	68	42.0
2	10人以上30人未満	36	22.2
3	30人以上50人未満	23	14.2
4	50人以上100人未満	19	11.7
5	100人以上200人未満	10	6.2
6	200人以上300人未満	2	1.2
7	300人以上	1	0.6
	無回答	3	1.9
	N (%ベース)	162	100



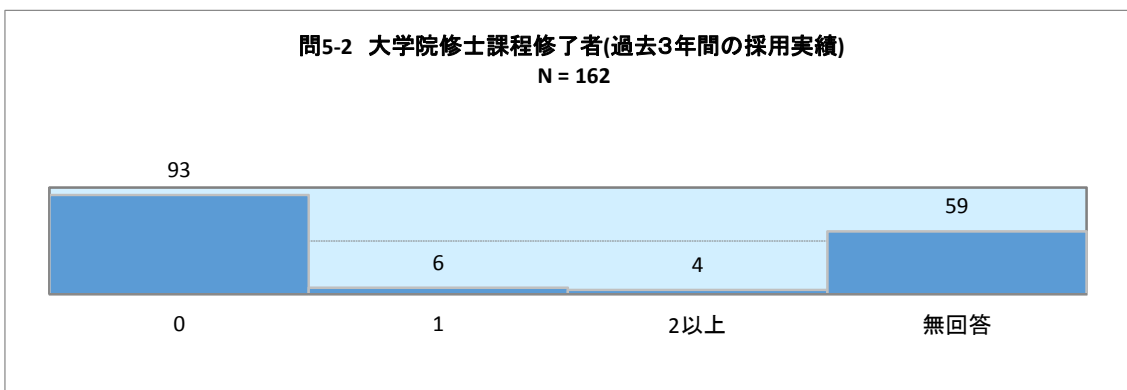
問5-1 大学院博士課程修了者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0	97	59.9
2	1以上	3	1.9
	無回答	62	38.3
	N (%ベース)	162	100



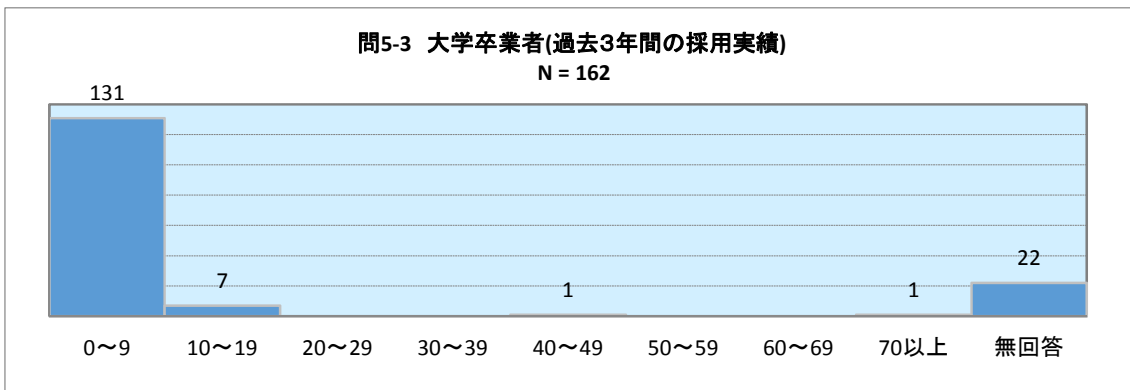
問5-2 大学院修士課程修了者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0	93	57.4
2	1	6	3.7
3	2以上	4	2.5
	無回答	59	36.4
	N (%ベース)	162	100



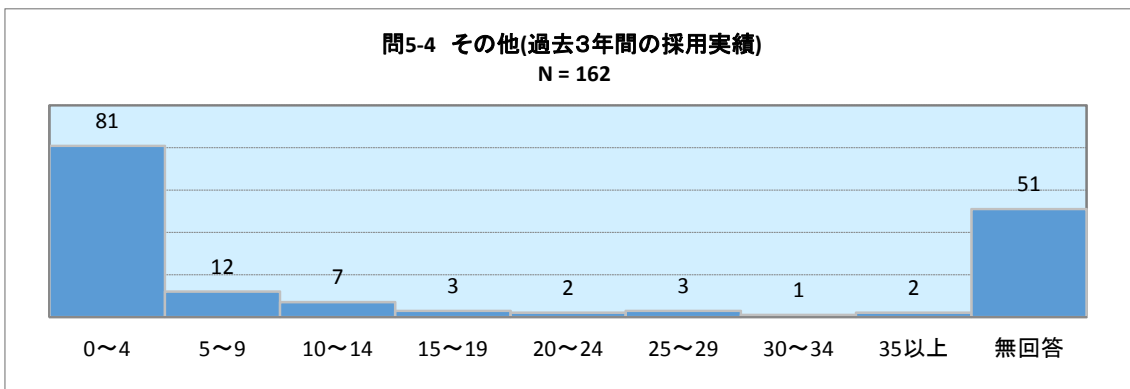
問5-3 大学卒業者(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0~9	131	80.9
2	10~19	7	4.3
3	20~29	0	0.0
4	30~39	0	0.0
5	40~49	1	0.6
6	50~59	0	0.0
7	60~69	0	0.0
8	70以上	1	0.6
	無回答	22	13.6
	N (%ベース)	162	100



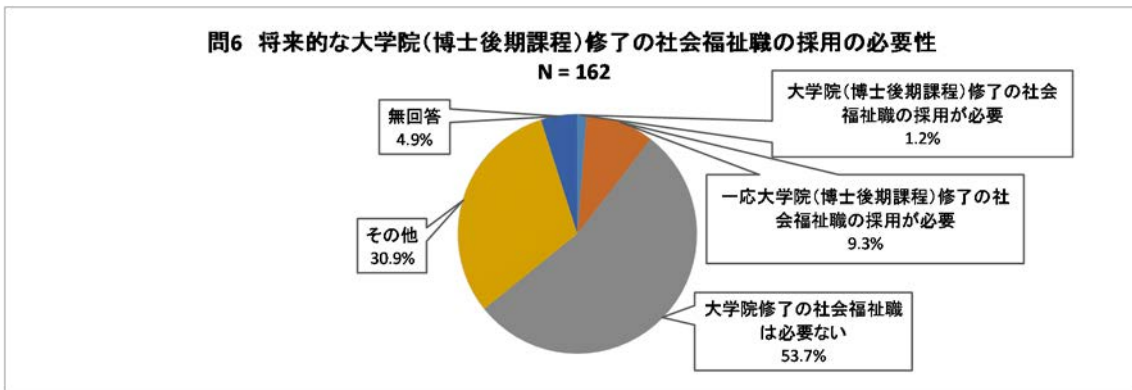
問5-4 その他(過去3年間の採用実績)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0~4	81	50.0
2	5~9	12	7.4
3	10~14	7	4.3
4	15~19	3	1.9
5	20~24	2	1.2
6	25~29	3	1.9
7	30~34	1	0.6
8	35以上	2	1.2
	無回答	51	31.5
	N (%ベース)	162	100



問6 将来的な大学院(博士後期課程)修了の社会福祉職の採用の必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院(博士後期課程)修了の社会福祉職の採用が必要	2	1.2
2	一応大学院(博士後期課程)修了の社会福祉職の採用が必要	15	9.3
3	大学院修了の社会福祉職は必要ない	87	53.7
4	その他	50	30.9
	無回答	8	4.9
	N (%ベース)	162	100

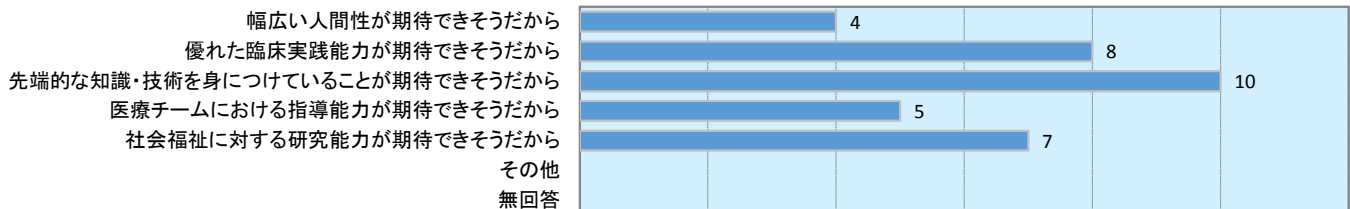


問7 大学院(博士後期課程)修了の社会福祉職の採用が必要な理由 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	幅広い人間性が期待できそうだから	4	23.5
2	優れた臨床実践能力が期待できそうだから	8	47.1
3	先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから	10	58.8
4	医療チームにおける指導能力が期待できそうだから	5	29.4
5	社会福祉に対する研究能力が期待できそうだから	7	41.2
6	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	17	100

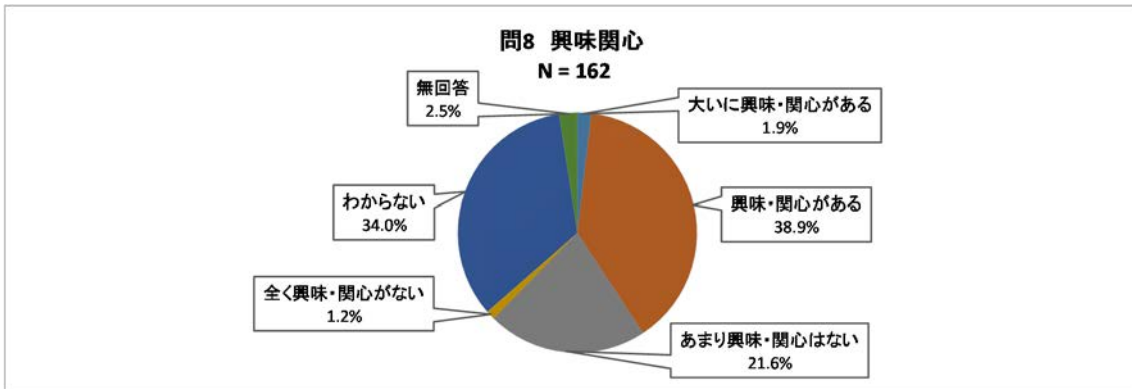
問7 大学院(博士後期課程)修了の社会福祉職の採用が必要な理由

N = 17



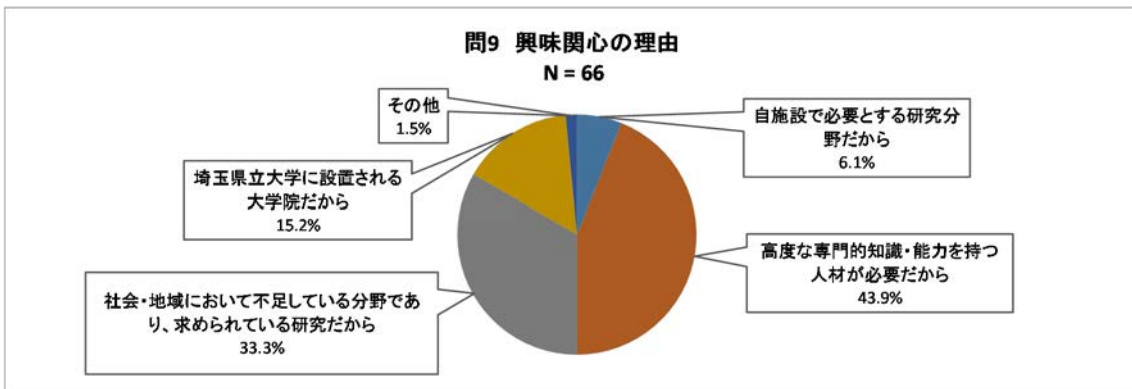
問8 興味関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	3	1.9
2	興味・関心がある	63	38.9
3	あまり興味・関心はない	35	21.6
4	全く興味・関心がない	2	1.2
5	わからない	55	34.0
	無回答	4	2.5
	N (%ベース)	162	100



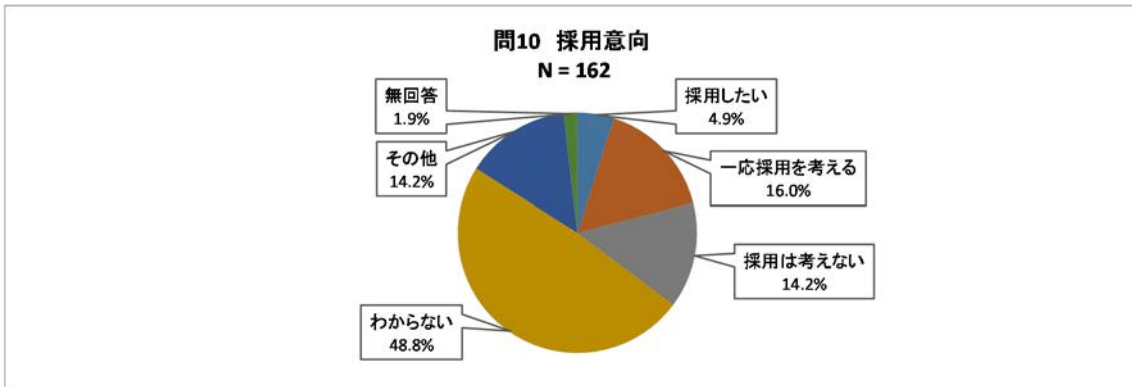
問9 興味関心の理由

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	自施設で必要とする研究分野だから	4	6.1
2	高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから	29	43.9
3	社会・地域において不足している分野であり、求められている研究だから	22	33.3
4	埼玉県立大学に設置される大学院だから	10	15.2
5	その他	1	1.5
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	66	100



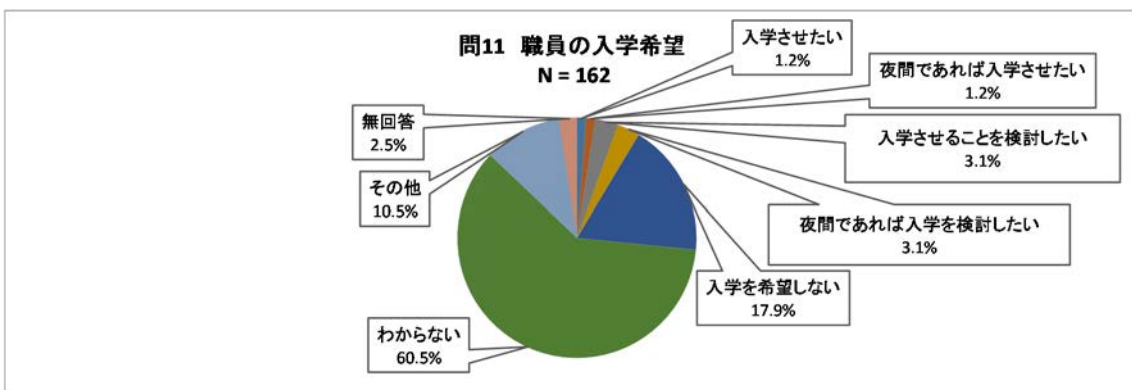
問10 採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	8	4.9
2	一応採用を考える	26	16.0
3	採用は考えない	23	14.2
4	わからない	79	48.8
5	その他	23	14.2
	無回答	3	1.9
	N (%ベース)	162	100



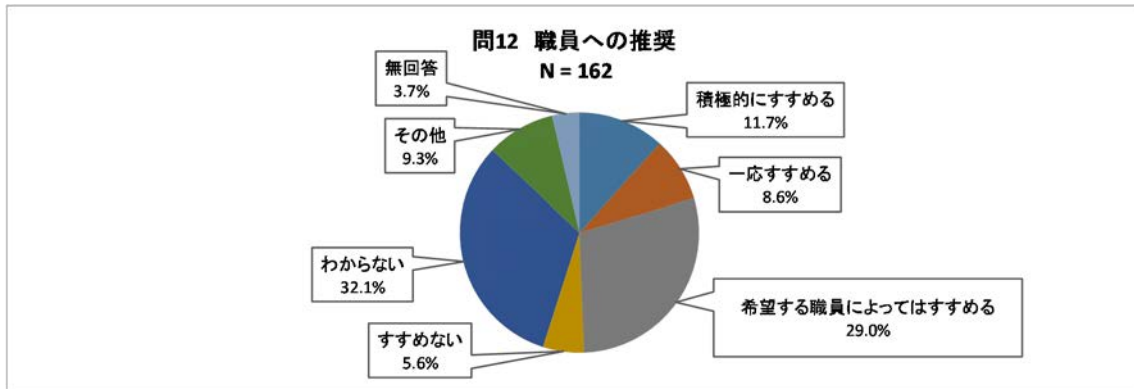
問11 職員の入学希望

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学させたい	2	1.2
2	夜間であれば入学させたい	2	1.2
3	入学させることを検討したい	5	3.1
4	夜間であれば入学を検討したい	5	3.1
5	入学を希望しない	29	17.9
6	わからない	98	60.5
7	その他	17	10.5
	無回答	4	2.5
	N (%ベース)	162	100



問12 職員への推奨

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的にすすめる	19	11.7
2	一応すすめる	14	8.6
3	希望する職員によってはすすめる	47	29.0
4	すすめない	9	5.6
5	わからない	52	32.1
6	その他	15	9.3
	無回答	6	3.7
	N (%ベース)	162	100



埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科
保健医療福祉学専攻（博士後期課程）
修了生に対する採用意向に係るアンケート調査
調査票

埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科についてのアンケート調査

このアンケート調査は、貴施設の採用意向、職員教育に関するご意向等についてお聞きし、平成27年4月に、本学大学院保健医療福祉学研究科（博士後期課程）を設置する計画に向けての基礎資料とするものです。ご協力をお願いします。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用います。回答は設問の順に回答欄に直接記入してください。

【貴社の概要について】

【回答欄】

問1 貴施設の設置主体は次のどれに該当しますか。一つだけ選んでください。

- 1 国立
- 2 公立（県立、市町村立、一部事務組合立を含む）
- 3 医療法人
- 4 その他（具体的に _____ ）

問2 貴施設の所在地はどこですか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 越谷市内
- 2 さいたま市内
- 3 埼玉県南部・南西部地域
- 4 埼玉県東部地域
- 5 埼玉県中央地域
- 6 埼玉県川越比企地域
- 7 埼玉県西部地域
- 8 埼玉県利根地域
- 9 埼玉県北部地域
- 10 埼玉県秩父地域

問3 貴施設の全従業員数（施設全体）についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 100人未満 | 5 1,000人以上3,000人未満 |
| 2 100人以上300人未満 | 6 3,000人以上5,000人未満 |
| 3 300人以上500人未満 | 7 5,000人以上10,000人未満 |
| 4 500人以上1,000人未満 | 8 10,000人以上 |

問4 貴施設の看護職者数（施設全体）についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 10人未満 | 5 100人以上200人未満 |
| 2 10人以上30人未満 | 6 200人以上300人未満 |
| 3 30人以上50人未満 | 7 300人以上 |
| 4 50人以上100人未満 | |

問5 貴施設の過去3年間（平成22～25年度）の看護職者の採用実績（新卒・中途採用含）についておたずねします。3年間の看護職者の採用人数の合計を、大学院博士課程修了者・大学院修士課程修了者・大学卒業者・その他の別で、回答欄に実数で記入してください。

大学院 博士課程修了者

 人

大学院 修士課程修了者

 人

大学卒業者

 人

その他

 人

問6 貴施設の将来的な大学院（博士後期課程）修了の看護職者の採用の必要性についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 大学院（博士後期課程）修了の看護職者の採用が必要
- 2 場合によっては大学院（博士後期課程）修了の看護職者の採用が必要
- 3 大学院修了の看護職者は必要ない
- 4 その他（ _____ ）

－裏面にお進みください－

- 問7 問6で「大学院（博士後期課程）修了の看護職者の採用が必要」「場合によっては大学院（博士後期課程）修了の看護職者の採用が必要」と回答された施設におたずねします。その理由は何ですか。次の中から該当するものを3つまで選んでください。
- 1 幅広い人間性が期待できそうだから
 - 2 優れた臨床実践能力が期待できそうだから
 - 3 先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから
 - 4 医療チームにおける指導能力が期待できそうだから
 - 5 訪問看護や退院支援など新たな分野の人材として期待できそうだから
 - 6 看護に対する研究能力が期待できそうだから
 - 7 看護職研修や職員研修など、教育的な能力が期待できそうだから
 - 8 看護管理や病院改革に対する能力が期待できそうだから
 - 9 多機関や行政との連携・地域連携に対する能力が期待できそうだから
 - 10 その他（具体的に）

【埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科看護学専修について】

- 問8 当研究科専攻の概要を読んでお答えください。
貴施設では本学の大学院保健医療福祉学研究科看護学専修についてどう考えますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 大いに興味・関心がある
 - 2 興味・関心がある
 - 3 あまり興味・関心はない
 - 4 全く興味・関心がない
 - 5 わからない

- 問9 問8で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された施設におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 自施設で必要とする研究分野だから
 - 2 高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから
 - 3 社会・地域において不足している分野であり、求められている研究だから
 - 4 埼玉県立大学に設置される大学院だから
 - 5 その他（具体的に）

- 問10 貴施設では将来、本学の大学院保健医療福祉学研究科看護学専修の修了者（博士後期課程）の採用を考えますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 採用したい
 - 2 一応採用を考える
 - 3 採用は考えない
 - 4 わからない
 - 5 その他（具体的に）

【埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科看護学専攻への職員の入学について】

- 問11 貴施設では、本学の大学院保健医療福祉学研究科看護学専修（博士後期課程）に職員の入学を希望しますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 入学させたい
 - 2 夜間であれば入学させたい
 - 3 入学させることを検討したい
 - 4 夜間であれば入学を検討したい
 - 5 入学を希望しない
 - 6 わからない
 - 7 その他
 - （具体的に）

- 問12 貴施設では、仮に職員側から本学の大学院保健医療福祉学研究科看護学専修（博士後期課程）で学びたい（学費は職員の自己負担として）と申し入れがあった場合、入学をすすめますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 積極的にすすめる
 - 2 一応すすめる
 - 3 希望する職員によってはすすめる
 - 4 すすめない
 - 5 わからない
 - 6 その他（具体的）

- 問13 本学の大学院保健医療福祉学研究科看護学専修（博士後期課程）の整備について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

□今後、本学大学院保健医療福祉学研究科看護学専修（博士後期課程）に関する説明会の案内や資料等の送付をご希望であれば、下記に病院名、住所、担当部課名、電話番号をご記入ください。

病 院 名	
住 所	〒
担当部課名	
電話番号	()

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科についてのアンケート調査

このアンケート調査は、貴施設の採用意向、社員教育に関するご意向等についてお聞きし、平成27年4月に、本学大学院保健医療福祉学研究科（博士後期課程）を設置する計画に向けての基礎資料とするものです。ご協力をお願いします。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用います。回答は設問の順に回答欄に直接記入してください。

【貴社の概要について】

【回答欄】

問1 貴施設の設置主体は次のどれに該当しますか。一つだけ選んでください。

- 1 国立
- 2 公立（県立、市町村立、一部事務組合立を含む）
- 3 医療法人
- 4 その他（具体的に _____）

問2 貴施設の所在地はどこですか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 越谷市内
- 2 さいたま市内
- 3 埼玉県南部・南西部地域
- 4 埼玉県東部地域
- 5 埼玉県中央地域
- 6 埼玉県川越比企地域
- 7 埼玉県西部地域
- 8 埼玉県利根地域
- 9 埼玉県北部地域
- 10 埼玉県秩父地域

問3 貴施設の全従業員数（施設全体）についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 100人未満 | 5 1,000人以上3,000人未満 |
| 2 100人以上300人未満 | 6 3,000人以上5,000人未満 |
| 3 300人以上500人未満 | 7 5,000人以上10,000人未満 |
| 4 500人以上1,000人未満 | 8 10,000人以上 |

問4 貴施設の理学療法士数（施設全体）についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 10人未満 | 5 100人以上200人未満 |
| 2 10人以上30人未満 | 6 200人以上300人未満 |
| 3 30人以上50人未満 | 7 300人以上 |
| 4 50人以上100人未満 | |

問5 貴施設の過去3年間（平成22～25年度）の理学療法士の採用実績（新卒・中途採用含）についておたずねします。3年間の理学療法士の採用人数の合計を、大学院博士課程修了者・大学院修士課程修了者・大学卒業者・その他の別で、回答欄に実数で記入してください。

大学院 博士課程修了者	<input type="text"/> 人	大学院 修士課程修了者	<input type="text"/> 人
大学卒業者	<input type="text"/> 人	その他	<input type="text"/> 人

問6 貴施設の将来的な大学院（博士後期課程）修了の理学療法士の採用の必要性についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 大学院（博士後期課程）修了の理学療法士の採用が必要
- 2 一応大学院（博士後期課程）修了の理学療法士の採用が必要
- 3 大学院修了の理学療法士は必要ない
- 4 その他（ _____ ）

－裏面にお進みください－

- 問7 問6で「大学院（博士後期課程）修了の理学療法士の採用が必要」「一応大学院（博士後期課程）修了の理学療法士の採用が必要」と回答された施設におたずねします。その理由は何ですか。次の中から該当するものを2つまで選んでください。
- 1 幅広い人間性が期待できそうだから
 - 2 優れた臨床実践能力が期待できそうだから
 - 3 先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから
 - 4 医療チームにおける指導能力が期待できそうだから
 - 5 地域リハビリテーションなど新たな分野の人材として期待できそうだから
 - 6 リハビリテーションに対する研究能力が期待できそうだから
 - 7 その他（具体的に）

【埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修について】

- 問8 当研究科専攻の概要を読んでお答えください。
 貴施設では本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修についてどう考えますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 大いに興味・関心がある
 - 2 興味・関心がある
 - 3 あまり興味・関心はない
 - 4 全く興味・関心がない
 - 5 わからない

- 問9 問8で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された施設におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 自施設で必要とする研究分野だから
 - 2 高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから
 - 3 社会・地域において不足している分野であり、求められている研究だから
 - 4 埼玉県立大学に設置される大学院だから
 - 5 その他（具体的に）

- 問10 貴施設では将来、本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修の修了者（博士後期課程）の採用を考えますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 採用したい
 - 2 一応採用を考える
 - 3 採用は考えない
 - 4 わからない
 - 5 その他（具体的に）

【埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修への職員の入学について】

- 問11 貴施設では、本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修（博士後期課程）に職員の入学を希望しますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 入学させたい
 - 2 夜間であれば入学させたい
 - 3 入学させることを検討したい
 - 4 夜間であれば入学を検討したい
 - 5 入学を希望しない
 - 6 わからない
 - 7 その他
 - （具体的に）

- 問12 貴施設では、仮に職員側から本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修（博士後期課程）で学びたい（学費は職員の自己負担として）と申し入れがあった場合、入学をすすめますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 積極的にすすめる
 - 2 一応すすめる
 - 3 希望する職員によってはすすめる
 - 4 すすめない
 - 5 わからない
 - 6 その他（具体的に）

- 問13 本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修（博士後期課程）の整備について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

□今後、本学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修（博士後期課程）に関する説明会の案内や資料等の送付をご希望であれば、下記に病院名、住所、担当部課名、電話番号をご記入ください。

病 院 名	
住 所	〒
担当部課名	
電話番号	()

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科についてのアンケート調査

このアンケート調査は、貴施設の採用意向、社員教育に関するご意向等についてお聞きし、平成27年4月に、本学大学院保健医療福祉学研究科（博士後期課程）を設置する計画に向けての基礎資料とするものです。ご協力をお願いします。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用います。回答は設問の順に回答欄に直接記入してください。

【貴社の概要について】

【回答欄】

問1 貴施設の設置主体は次のどれに該当しますか。一つだけ選んでください。

- 1 国立
- 2 公立（県立、市町村立、一部事務組合立を含む）
- 3 医療法人
- 4 その他（具体的に _____）

問2 貴施設の所在地はどこですか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 越谷市内
- 2 さいたま市内
- 3 埼玉県南部・南西部地域
- 4 埼玉県東部地域
- 5 埼玉県中央地域
- 6 埼玉県川越比企地域
- 7 埼玉県西部地域
- 8 埼玉県利根地域
- 9 埼玉県北部地域
- 10 埼玉県秩父地域

問3 貴施設の全従業員数（施設全体）についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 100人未満 | 5 1,000人以上3,000人未満 |
| 2 100人以上300人未満 | 6 3,000人以上5,000人未満 |
| 3 300人以上500人未満 | 7 5,000人以上10,000人未満 |
| 4 500人以上1,000人未満 | 8 10,000人以上 |

問4 貴施設の作業療法士数（施設全体）についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 10人未満 | 5 100人以上200人未満 |
| 2 10人以上30人未満 | 6 200人以上300人未満 |
| 3 30人以上50人未満 | 7 300人以上 |
| 4 50人以上100人未満 | |

問5 貴施設の過去3年間（平成22～25年度）の作業療法士の採用実績（新卒・中途採用含）についておたずねします。3年間の作業療法士の採用人数の合計を、大学院博士課程修了者・大学院修士課程修了者・大学卒業者・その他の別で、回答欄に実数で記入してください。

大学院 博士課程修了者	□ 人	大学院 修士課程修了者	□ 人
大学卒業者	□ 人	その他	□ 人

問6 貴施設の将来的な大学院（博士後期課程）修了の作業療法士の採用の必要性についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 大学院（博士後期課程）修了の作業療法士の採用が必要
- 2 一応大学院（博士後期課程）修了の作業療法士の採用が必要
- 3 大学院修了の作業療法士は必要ない
- 4 その他（ _____ ）

－裏面にお進みください－

- 問7 問6で「大学院（博士後期課程）修了の作業療法士の採用が必要」「一応大学院（博士後期課程）修了の作業療法士の採用が必要」と回答された施設におたずねします。その理由は何ですか。次の中から該当するものを2つまで選んでください。
- 1 幅広い人間性が期待できそうだから
 - 2 優れた臨床実践能力が期待できそうだから
 - 3 先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから
 - 4 医療チームにおける指導能力が期待できそうだから
 - 5 地域リハビリテーションなど新たな分野の人材として期待できそうだから
 - 6 リハビリテーションに対する研究能力が期待できそうだから
 - 7 その他（具体的に）

【埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修について】

- 問8 当研究科専攻の概要を読んでお答えください。
貴施設では本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修についてどう考えますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 大いに興味・関心がある
- 2 興味・関心がある
- 3 あまり興味・関心はない
- 4 全く興味・関心がない
- 5 わからない

- 問9 問8で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された施設におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 自施設で必要とする研究分野だから
- 2 高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから
- 3 社会・地域において不足している分野であり、求められている研究だから
- 4 埼玉県立大学に設置される大学院だから
- 5 その他（具体的に）

- 問10 貴施設では将来、本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修の修了者（博士後期課程）の採用を考えますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 採用したい
- 2 一応採用を考える
- 3 採用は考えない
- 4 わからない
- 5 その他（具体的に）

【埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修への職員の入学について】

- 問11 貴施設では、本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修（博士後期課程）に職員の入学を希望しますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 入学させたい
- 2 夜間であれば入学させたい
- 3 入学させることを検討したい
- 4 夜間であれば入学を検討したい
- 5 入学を希望しない
- 6 わからない
- 7 その他
- （具体的に）

- 問12 貴施設では、仮に職員側から本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修（博士後期課程）で学びたい（学費は職員の自己負担として）と申し入れがあった場合、入学をすすめますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 積極的にすすめる
- 2 一応すすめる
- 3 希望する職員によってはすすめる
- 4 すすめない
- 5 わからない
- 6 その他（具体的に）

- 問13 本学の大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修（博士後期課程）の整備について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

□今後、本学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修（博士後期課程）に関する説明会の案内や資料等の送付をご希望であれば、下記に病院名、住所、担当部課名、電話番号をご記入ください。

病 院 名	
住 所	〒
担当部課名	
電話番号	()

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科についてのアンケート調査

このアンケート調査は、貴施設の採用意向、社員教育に関するご意向等についてお聞きし、平成27年4月に、本学大学院保健医療福祉学研究科（博士後期課程）を設置する計画に向けての基礎資料とするものです。ご協力をお願いします。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用います。
回答は設問の順に回答欄に直接記入してください。

【貴社の概要について】

【回答欄】

問1 貴施設の設置主体は次のどれに該当しますか。一つだけ選んでください。

- 1 国立
- 2 公立（県立、市町村立、一部事務組合立を含む）
- 3 医療法人
- 4 福祉事務所、行政関係
- 5 その他（具体的に _____ ）

問2 貴施設の所在地はどこですか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 越谷市内
- 2 さいたま市内
- 3 埼玉県南部・南西部地域
- 4 埼玉県東部地域
- 5 埼玉県中央地域
- 6 埼玉県川越比企地域
- 7 埼玉県西部地域
- 8 埼玉県利根地域
- 9 埼玉県北部地域
- 10 埼玉県秩父地域

問3 貴施設的全従業員数（施設全体）についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 100人未満 | 5 1,000人以上3,000人未満 |
| 2 100人以上300人未満 | 6 3,000人以上5,000人未満 |
| 3 300人以上500人未満 | 7 5,000人以上10,000人未満 |
| 4 500人以上1,000人未満 | 8 10,000人以上 |

問4 貴施設の社会福祉職数（施設全体）についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 10人未満 | 5 100人以上200人未満 |
| 2 10人以上30人未満 | 6 200人以上300人未満 |
| 3 30人以上50人未満 | 7 300人以上 |
| 4 50人以上100人未満 | |

問5 貴施設の過去3年間（平成22～25年度）の社会福祉職の採用実績（新卒・中途採用含）についておたずねします。3年間の社会福祉職の採用人数の合計を、大学院博士課程修了者・大学院修士課程修了者・大学卒業者・その他の別で、回答欄に実数で記入してください。

大学院 博士課程修了者	人	大学院 修士課程修了者	人
大学卒業者	人	その他	人

問6 貴施設の将来的な大学院（博士後期課程）修了の社会福祉職の採用の必要性についておたずねします。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。

- 1 大学院（博士後期課程）修了の社会福祉職の採用が必要
- 2 一応大学院（博士後期課程）修了の社会福祉職の採用が必要
- 3 大学院修了の社会福祉職は必要ない
- 4 その他（ _____ ）

- 問7 問6で「大学院(博士後期課程)修了の社会福祉職の採用が必要」「一応大学院(博士後期課程)修了の社会福祉職の採用が必要」と回答された施設におたずねします。その理由は何ですか。次の中から該当するものを2つまで選んでください。
- 1 幅広い人間性が期待できそうだから
 - 2 優れた臨床実践能力が期待できそうだから
 - 3 先端的な知識・技術を身につけていることが期待できそうだから
 - 4 医療チームにおける指導能力が期待できそうだから
 - 5 社会福祉に対する研究能力が期待できそうだから
 - 6 その他(具体的に)
-

【埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科健康福祉科学専修について】

- 問8 当研究科専攻の概要を読んでお答えください。
貴施設では本学の大学院保健医療福祉学研究科健康福祉科学専修についてどう考えますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 大いに興味・関心がある
 - 2 興味・関心がある
 - 3 あまり興味・関心はない
 - 4 全く興味・関心がない
 - 5 わからない
-

- 問9 問8で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された施設におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 自施設で必要とする研究分野だから
 - 2 高度な専門的知識・能力を持つ人材が必要だから
 - 3 社会・地域において不足している分野であり、求められている研究だから
 - 4 埼玉県立大学に設置される大学院だから
 - 5 その他(具体的に)
-

- 問10 貴施設では将来、本学の大学院保健医療福祉学研究科健康福祉科学専修の修了者(博士後期課程)の採用を考えますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 採用したい
 - 2 一応採用を考える
 - 3 採用は考えない
 - 4 わからない
 - 5 その他(具体的に)
-

【埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科健康福祉科学専修への職員の入学について】

- 問11 貴施設では、本学の大学院保健医療福祉学研究科健康福祉科学専修(博士後期課程)に職員の入学を希望しますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 入学させたい
 - 2 夜間であれば入学させたい
 - 3 入学させることを検討したい
 - 4 夜間であれば入学を検討したい
 - 5 入学を希望しない
 - 6 わからない
 - 7 その他
 - (具体的に)
-

- 問12 貴施設では、仮に職員側から本学の大学院保健医療福祉学研究科健康福祉科学専修(博士後期課程)で学びたい(学費は職員の自己負担として)と申し入れがあった場合、入学をすすめますか。次の中から該当するものを一つだけ選んでください。
- 1 積極的にすすめる
 - 2 一応すすめる
 - 3 希望する職員によってはすすめる
 - 4 すすめない
 - 5 わからない
 - 6 その他(具体的に)
-

- 問13 本学の大学院保健医療福祉学研究科健康福祉科学専修(博士後期課程)の整備について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

□今後、本学大学院保健医療福祉学研究科健康福祉科学専修（博士後期課程）に関する説明会の案内や資料等の送付をご希望であれば、下記に病院名、住所、担当部課名、電話番号をご記入ください。

病 院 名	
住 所	〒
担当部課名	
電話番号	()

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

変 更 案	現 行
<p data-bbox="405 580 875 612">公立大学法人埼玉県立大学中期目標</p> <p data-bbox="465 1206 824 1334">平成22年4月 <u>(平成26年3月一部改訂)</u> 埼 玉 県</p>	<p data-bbox="1352 580 1823 612">公立大学法人埼玉県立大学中期目標</p> <p data-bbox="1480 1254 1688 1334">平成22年4月 埼 玉 県</p>

(略)

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果に関する目標

ア 学士課程における教育

(略)

イ 大学院課程における教育

保健・医療・福祉の各分野における専門性を深める教育研究を推進するとともに、保健・医療・福祉の連携と統合という大学の教育理念を包括的に理解し、更に深める。

博士前期課程（修士課程）においては、保健・医療・福祉の学際的な知識と技術を総合的に駆使できる能力を身に付けた高度な専門職業人を育成する。

博士後期課程においては、保健・医療・福祉の理論と技術開発から人材育成まで統合的な視野で超高齢社会に貢献できる高度な専門職業人、研究者及び教育者を育成する。

(略)

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

(略)

2 教育研究組織の見直しに関する目標

保健・医療・福祉の分野における教育研究の高度化・学際化・国際化と時代や社会の要請の変化に的確に対応するため、中長期的な視点に立って学部、研究科等の教育研究組織の検討や見直しを行う。

なお、大学院については平成27年度までに博士課程を設置する。

(略)

(略)

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果に関する目標

ア 学士課程における教育

(略)

イ 修士課程における教育

保健・医療・福祉の各分野における専門性を深める教育研究を推進するとともに、保健・医療・福祉の連携と統合という大学の教育理念を包括的に理解し、更に深めることによって、保健・医療・福祉の学際的な知識と技術を総合的に駆使できる能力を身に付けた高度な専門職業人を育成する。

(略)

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

(略)

2 教育研究組織の見直しに関する目標

保健・医療・福祉の分野における教育研究の高度化・学際化・国際化と時代や社会の要請の変化に的確に対応するため、中長期的な視点に立って学部、研究科等の教育研究組織の検討や見直しを行う。

(略)

平成26年5月16日

公立大学法人 埼玉県立大学
理事長 江利川 毅様

公益社団法人 埼玉県看護協会
会長 熊木 孝子

要 望 書

わが国は超高齢・少子・多死社会を迎え、2025年に向けて、持続可能な医療・介護提供体制をいかに実現するかが大きな課題となっております。

中でも埼玉県は全国一早いスピードで超高齢化に向かって進んでおります。そして、その高齢化率は平成27年度では25%、平成42年には約30%と他の都市部とことなる傾向で推移しており、将来に向けて医療・保健・福祉分野の連携による質の高いサービスの提供を、いかにやっていくかが喫緊の課題であります。

貴学においては、平成11年の開学以来、保健医療福祉分野における連携教育を実践し埼玉県下12地域エリアで地域専門職連携推進会議を設け、多職種連携強化会議や、多くの研修会を開催し、地域医療に貢献しています。また、平成22年には大学院保健医療福祉学研究科修士課程を創設し、リカレントに軸足を置いた大学院として、社会人の学ぶ場を提供しています。

このような実践からさらに、埼玉県民の健康長寿支援や医療サービスを支えるために必要な問題解決能力や自立した研究者能力を有し、指導力を発揮できる人材の養成が可能となれば医療・保健・福祉分野における県民の健康サービスへの貢献が期待できます。

埼玉県看護協会は、日本の社会情勢を踏まえ、日本のそして埼玉県の医療を支える看護職の資質の向上に努めるべく様々な研修を実施しております。そして、保健医療福祉におけるより高度な知識を備え、それぞれの現場で直面している課題を解決できる有能な人材の育成に努力しておりますが職能団体としての限界があります。

そこで、より専門性の高い看護実践能力や大学院における研究能力、教育能力を有する高度看護職の養成が必要と考える次第です。加えて、埼玉県においては、看護系大学が急増しているがどの大学からも教員不足と教員の資質の問題を聴いております。このような問題解決のためにも、博士課程の教育機関の設置は急務と考えます。現在、大学における博士の養成は県下では1校のみであり、教育研究機関養成の充実を図ることが重要な課題であると考えます。

これからの医療は病院から地域・在宅へと大きくパラダイムシフトすることが求められ、看護職にとっても今後の役割や動き方、教育のあり方などを見直していくことが求められております。

以上の理由から、埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科における博士後期課程の早期設置を強く要望するものであります。

平成 26 年 5 月 19 日

公立大学法人 埼玉県立大学
理事長 江利川 毅 様

公益社団法人 埼玉県理学療法士会
会長 清宮清美



埼玉県では、15歳未満の年少人口と15歳から64歳までの生産年齢人口の割合は減少することが予想されておりますが、65歳以上の老年人口の割合は増加し、特に75歳以上の人口は、平成37年には約122万人と、平成22年の約2倍になるものと見込まれております。関東圏内における埼玉県の高齢化率は平成27年度では25%、平成32年には、約30%と他の都市部と異なる傾向で推移しており、急速な高齢社会にむけた、高齢者支援システムを確立することが喫緊の課題であります。また難病や医療依存度の高い患者ニーズにどのように対応していくか、予防的観点からの健康増進や高齢者終末期への支援まで、総合的なサービスの向上のためには、理学療法士のさらなる技術開発および理学療法の効果検証を絶えず行いながら、エビデンスの構築を行っていくことが重要であります。このような理論的、実践能力の向上をすすめる保健・医療・福祉の高度専門職業人のための研究ならびに教育機関が必要であります。貴学は平成21年に大学院保健医療福祉学研究科を創設し、リカレントに軸足を置いた大学院として社会人の学ぶ場を提供しています。このような実践からさらに、埼玉県民の健康長寿支援や医療サービスを支えるために、必要な問題解決能力や自立した研究者能力を有し、指導力を発揮できる人材の養成が可能となれば、医療・保健・福祉分野における県民への貢献が期待できます。

埼玉県理学療法士会は、日本の医療を支え、リハビリテーションの一員を担う理学療法士の資質の向上のため、保健医療福祉における高度な知識をそなえ、臨床現場に直面している課題を解決できる有能な人材の育成に努力しているところでありますが、大学院における博士養成は、県下では1校のみであり、教育研究機関養成の充実を図ることも重要な課題であると考えております。

以上の理由から、埼玉県立大学 大学院研究科における博士課程の設置を強く要望するものであります。

埼玉作業士会第 26-3 号

平成 26 年 5 月 15 日

公立大学法人 埼玉県立大学
理事長 江利川 毅 様

一般社団法人 埼玉県作業療法士会
会長 星 克司



公立大学法人埼玉県立大学におかれましては、平成11年に保健医療福祉学部作業療法学科を、平成21年には保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修を設置され「連携と統合」の旗印の基に埼玉県民のみならず広く国民の保健医療福祉の向上に寄与する作業療法士を養成いただいております。

さて、埼玉県の高齢化率は、平成 22 年の国勢調査にて 20.4%と全国で 5 番目に低い状況であります。今後平成 27 年には約 25%、平成 42 年には約 30%と関東圏内の他県とも異なる傾向で高齢化が加速することが見込まれており埼玉県独自の対応が求められております。このため当会におきましても、埼玉県の「健康長寿埼玉プロジェクト」に基づき県民が日常生活圏域で質の高い生活が送れるように務めております。現在、県内の作業療法士有資格者は 1,000 名を超え人材の量としては確保されつつありますが、多様化した社会ニーズに応えていくためには、作業療法学の専門的な知識・技術を有し、他の医療保健福祉従事者と協働しながら実践できる人材の質の確保が急務となっております。しかし、埼玉県内には、作業療法学の博士課程教育が存在せず学問的な質の確保が憂慮される状況にあります。

こうした状況をご勘案いただき、貴大学法人には埼玉県立大学大学院に作業療法学と関連した博士課程を設置いただき多様化した社会ニーズに応えうる専門的な知識・技術をもつ作業療法士の育成、将来の作業療法教育および研究を担う研究者の育成にご尽力いただきたいと願っております。